でてきな祭2016

日時：5月14日／9時30分～14時（予定）
会場：小幡緑地本園（名古屋市守山区大字牛牧字中山1632-1）
主催：でてきな祭実行委員会
問い合わせ：detekinasai@yahoo.co.jp（E-mail）
090-8542-0087（小池征司さん）
※雨天中止の場合は、当日朝7時30分までにウェブサイト（http://www.geocities.jp/detekinasai/）で掲載します

1・2・3／でてきな祭は、小幡緑地の本園にある芝生広場を中心に開催。例年およそ600人の来場者が集まります。世界の音楽や踊りを楽しめる「きょろきょろわーるど☆ステージ」では、見ている大人や子どもも演奏に挑戦。国の文化に触れる良い機会となっています

巻頭特集

＼＼ 守山のみなさ～ん、でてきなさ～い ／／

地域の人と人をつなぐボランティアの祭り

でてきな祭（さい）

「新たな魅力を生み出して、守山区をおもしろくしていこう」という
地域の思いで始められた「でてきな祭」。
身近な自然を楽しむウオーキングやさまざまな国の人々が参加する屋台村、
踊りや歌などのステージを通して、
新しいきずなをつくっていこうと地域一丸となって取り組んでいます。

一人ひとりが主役になれる手づくりの祭り

毎年5月、小幡緑地の本園で開催される「でてきな祭」は、地域のボランティアで運営されている手づくりの祭りです。始まったのは90年代の後半。守山区役所の講堂を借りて3～4年ほど続いた後、数年間の中断を挟んで、2008年に復活しました。

「地域の皆さんの力を借りることで、新たな魅力を生み出して守山区をおもしろくしていきたいと思って始めた祭りなんです」と話すのは、実行委員会の委員長を務める小池征司さん。

「誰もが主役になれるお祭」「人と人とがつながるお祭」「みんなでつくりあげるお祭」という3つのテーマを掲げ、有志と協力しながら開催を続けています。

メーン企画は、緑豊かな小幡緑地をウオーキングする「もりやまうぉーく」。5キロメートルコースのほか、高齢者や障がいがある人、小さな子どもでも気軽に楽しめる2キロメートルコースが用意されています。「なるべくたくさんの方に身近な公園で自然に触れながら、普段とは違う視点で守山区の良さを知ってほしい」と思いを語ります。

ウオーキングでは、飲み物を配ったり簡単なゲームなどを用意したチェックポイントをコースの数カ所に設けたりしています。ただ歩くだけではなく、歩行者同士、会話を楽しみながら人と人のつながりを育んでいます。

さまざまな国の文化触れられる機会づくり

世界各国の人が披露する国際色豊かな催しも、でてきな祭の見どころのひとつです。

「普段、あまり味わうことが少ない世界のおいしい料理を食べたり、さまざまな踊りや音楽に触れたりできるのが魅力です。国の文化を身近に感じられる良い機会となっています」

当日はインドやエジプト、韓国、ペルー、ブラジル、ハンガリーなど世界各国の名物料理が屋台村に並びます。当初は5～6カ国でスタートしましたが、年々数が増えていき、近年は10カ国以上が参加するまでになりました。今年は新しくベトナム料理の屋台も出店する予定です。

世界の踊りや音楽を楽しめる特設ステージでは、民族衣装を着たペルーや中国、インドの踊りとバングラディシュの歌など、各国の伝統的な文化を鑑賞できます。数年前からは、世界各国の挨拶など簡単な言葉をいうだけでシールなどがもらえるスタンプラリーや、国のことを学べるクイズ大会も企画・実施しました。

高齢者のボランティアが子どもたちに昔の遊びなどを教えるコーナーも人気です。今年からは、世界の人々が紹介する各国の遊びもより豊富になり、大人だけでなく小さな子どもたちも楽しめる祭りとして、年を追うごとに内容が充実しています。

地域の支えで祭りを開催 広がる人のつながり

毎年の開催に携わっているのは、実行委員会のメンバーだけではありません。愛知ペルー文化交流協会など地域の国際交流団体、大学のボランティアサークル、各大学の留学生や地元の高校生、そして地域の小学校や商店なども協力して祭りをつくりあげています。

「たくさんのお店で告知ポスターを貼らせていただいたり、協賛金でご協力をいただいたりしています。ありがたいことに少しずつ応援してくださる方が増えてきているんです」とほほ笑む小池さん。手づくりの祭りのため、当日使用するテーブルや椅子、テントなども近隣の小学校や地元の装具店から借りています。

今後の目標は、さらに地域の多くの人を巻き込んで祭りを盛り上げていくこと。「年齢や国籍などがそれぞれ違う多様な人が集まる中で、訪れた人に楽しさを少しでも知ってもらいたいです」と意気込みます。

当日開催されるフリーマーケットでは、売買や値段交渉を通して初めて会う人とコミュニケーションを取れるだけでなく、「自分も何か新しいことをしてみよう」という思いが芽生える、最初の入り口となる役割も担っています。

多くの人が集まる楽しい祭りを通して、地域の新たなつながりを生み出す、でてきな祭。今年の開催は5月14日を予定しています。当日、地域の温かさを感じに、足を運んでみてはいかがでしょう。

でてきな祭実行委員会委員長の小池征司さん。普段は守山区の障がい者施設に勤務しています

祭りに関わる団体の一部を紹介します

南山大学ボランティアサークル主幹／鬼頭恵実さん

普段は地域活動の補助や献血の呼びかけをしています。祭りでは各屋台の売り子、テントの組み立てや片付け、過去には車いす自転車の実演もしました。活動を通じて、ボランティアの仲間が増えました。祭りのコンセプトに沿い、一人ひとりが主役となって助け合い、祭りをつくりあげていこうと心がけています。

祭りの魅力は、幅広い年代の人々や外国人と交流することができること。今年度も運営の補助として参加予定です。「今年は晴天のもと、皆さんと一緒に祭りを精いっぱい支えながら楽しみたいと思います!」と鬼頭さんは話します。

ペルーの貧困層の子どもたちへの支援を含めた文化紹介や福祉施設への慰問活動などをしています。国際交流協会のイベントではさまざまな国の人々とつながり、親睦を深めています。2011年には活動が評価され、ペルーから表彰されました。踊りや料理、民族性をはじめとするペルーの魅力を広めようと尽力しています。

プエナス タルデス!（こんにちは!）今年で4回目の出店です。ペルー風のクッキーやコロッケを販売する予定。ステージでは踊りを披露するので、見ている方もぜひ気軽に参加してください。

インティ デル ペルー文化センター 大岩久男さん

学生ボランティアサークルおでん 名古屋大学4年生／今井良紀さん 同大学2年生／山口紗世さん

名古屋市内で、障がいがある人々と一緒に出かけたり調理をしたりしています。また、林間学習やクリスマス会などの行事を企画・実施。祭りでの役割は各屋台での売り子やステージの司会を担当しています。来場者に楽しんでもらえるように、メンバーで考案した○×クイズを実施した年もありました。少しでもステージに注目してもらえるように、本番当日にむけて練習に励んでいます。
主催者側と参加者側の距離が近いことが祭りの魅力。「今年もステージの司会進行と売り子で参加予定です。一緒に祭りを楽しみましょう!」

ヨーナポト!（こんにちは!）野菜や民芸品の販売、料理の提供を予定しています。ナトゥール農園としては初めての出店です。トランシルヴァニア（ハンガリー）のホウレンソウ、ロールキャベツや肉だんご、パンをぜひ味わってみてください。

トランシルヴァニア日本民俗センター 大塚奈美さん（右）
ナトゥール農園 ラーザール・アティッラさん（左）

昨年から農園の活動を開始しました。瀬戸市内で無農薬の野菜を育て、道の駅などで販売しています。トランシルヴァニアを紹介したり、大塚さんたちが踊る踊りを通して、ハンガリー人の文化を少しでも多くの人に知ってもらおうと活動しています。

文／藤原均　写真提供／でてきな祭実行委員会、インティ デル ペルー文化センター、学生ボランティアサークルおでん、ナトゥール農園（トランシルヴァニア日本民俗センター）、南山大学ボランティアサークル
デザイン／HANZO（GOZEN4JI ART WORKS）